

研修参加報告書

令和4年11月30日

会派名 江南クラブ
会派代表者 牧野 圭佑

参加者：宮地友治、古池勝英、牧野圭佑、稲山明敏、尾関昭、片山裕之
研修の内容について、次のとおり報告します。

①

年月日	令和4年10月13日（木）
研修時間	9：30 ～ 17：00
研修場所	出島メッセ長崎
研修内容	第84回全国都市問題会議 個性を活かして「選ばれる」まちづくり ～何度も訪れたい場所になるために～ ・ 基調講演 株式会社ジャパネットホールディングス代表取締役社長兼 CEO 高田 旭人氏 ・ 主報告 長崎県長崎市長 田上 富久氏 ・ 一般報告 鳥取県立大学地域政策学部准教授 田中 輝美氏 山形県山形市長 佐藤 孝弘氏 一般社団法人地域力創造デザインセンター代表理事 高尾 忠志氏

②

年月日	令和4年10月14日（金）
研修時間	9：30 ～ 12：00
研修場所	出島メッセ長崎
研修内容	第84回全国都市問題会議 個性を活かして「選ばれる」まちづくり ～何度も訪れたい場所になるために～ ・パネルディスカッション コーディネーター 東京都立大学法学部教授 大杉 覚 氏 パネリスト ゆとり研究所所長 野口 智子氏 山梨大学生命環境学部 地域社会システム学科教授 田中 敦 氏 NPO法人長崎コンプラドール理事長 桐野 耕一氏 岐阜県飛騨市長 都竹 淳也氏 兵庫県伊丹市長 藤原 保幸氏

研修参加報告書

①

年月日	令和4年10月13日(木)
研修時間	9:30 ~ 17:00
研修場所	出島メッセ長崎
研修内容	第84回全国都市問題会議 個性を活かして「選ばれる」まちづくり ～何度も訪れたい場所になるために～ (講師: 別紙参照)
■目的 第84回全国都市問題会議、個性を活かして「選ばれる」まちづくりへ参加して、様々な先進事例、今後のまちづくりのあり方を学ぶため。	
■内容 ○開会式: 挨拶 全国市長会会長 立谷 秀清相馬市長 ○開催市市長挨拶 田上 富久長崎市長 ○来賓祝辞 大石 賢吾長崎県知事の代理 ○基調講演 株式会社ジャパネットホールディングス代表取締役社長兼CEO 高田 旭人氏「民間主導の地域創世の重要性」 ○主報告 長崎県長崎市長 田上 富久氏「長崎市の魅力あるまちづくり」 ○一般報告 ・「地域との新しい関わり方・関係人口」 島根県立大学地域政策学部准教授 田中 輝美氏 ・「ビジョンを活かしたまちづくり～「選ばれる山形市」を目指して～」 山形県山形市長 佐藤 孝弘氏 ・「交流の産業化」を支える景観まちづくり ～長崎市景観専門監の取り組み～ 一般社団法人地域力創造デザインセンター代表理事 高尾 忠志氏	

■所感

ジャパネットグループは長崎駅近くにスタジアム・アリーナや商業施設、ホテル、立体駐車場等で構成する「長崎スタジアムシティプロジェクト」を進め、2024年の開業を目指しています。「もっと長崎を盛り上げたい」という地元を愛する強い想いを感じました。交通インフラなど民間企業だけではできない部分も多くあります。地域を活性化させるには、民間と公共が共同して地域創生を実現することが大切であることを考えさせられました。

今回の会場である長崎市は観光都市であり、西九州新幹線長崎駅開通により観光で訪れる人が増加することが期待され、駅中心に再開発が進行中です。

地元で暮らす人・訪れる人が交流する事により、ともにまちを感じ、暮らしている中では気づきにくいその都市ならではの自然、文化、歴史などの新たな価値が見つかり、それらを磨き共有することで、まちの価値が創られていくとのこと。特に、まちのデザインにかかる長崎市景観専門監の採用と取り組みの実績は、興味深く傾聴しました。

江南市と長崎市では観光で訪れる人の数は大きく違いますが、暮らす人にもまちを訪れる人にも魅力的なまちづくりは持続可能な地域社会の構築につながるものと考えます。

今回、お聞きした内容を今後、少しでも江南市の将来のビジョンの構築に活かしていきたいと思います。

研修参加報告書

②

年月日	令和4年10月14日(金)
研修時間	9:30 ~ 12:00
研修場所	出島メッセ長崎
研修内容	第84回全国都市問題会議 個性を活かして「選ばれる」まちづくり ～何度も訪れたい場所になるために～ (講師: 別紙参照)
■目的 全国都市問題会議、個性を活かして「選ばれる」まちづくりへ参加して、様々な先進事例、「選ばれる」まちづくりとは何かを学ぶため	
■内容 ○パネルディスカッション コーディネーター1名と5名によるパネルディスカッション ◇「選ばれる」まちづくりに向けた都市自治体のアプローチ 大杉 覚 ・「選ばれる」まちづくりへの多彩なアプローチ 観光立地型、観光政策型、プラスワン拠点型、移住・定住型、 価値実現型 ◇人が人を磨き、輝く人が人を呼ぶ～「雲仙人プロジェクト」の試み 野口 智子 1. 地域おこしを頑張る人は既にいる。 2. 人と人が出会うと、新しいことが起きる。 3. オンラインでもつながりは育つ 4. 「あの人がどうしているかしら？」の関係を大事にする。 ◇ワーケーションの意味の拡張と変異 田中 敦 1. ワーケーションの発祥と国内での知名度の高まり 2. 日本のワーケーションの出現と分類 3. 日本型ワーケーションの拡張と変異 ◇人は人に会いに行く～「まち歩き」で見つけた“まちのつくり方”～ 桐野 耕一 1. 長崎さるく博の開催 2. まち歩きガイドの心得 3. 何度も訪れたい場所になるために	

◇人口減少先進地の挑戦～ファンと共に取り組むまちづくり～

都竹 淳也

1. 飛騨市ファンクラブの仕組みと活動
2. 会員獲得の努力と活動の拡大
3. ファンクラブから生まれた「関係人口」
4. 関係案内所「ヒダスケ」の活動
5. 関係人口の理論とメカニズム

◇清酒発祥の地・伊丹～酒と文化が薫るまち～

藤原 保幸

1. 日本遺産認定
2. 市立伊丹ミュージアム開館
3. にぎわい創出・何度も訪れたいくなるまち

■所感

高齢化、人口減少は全国的に問題となっており、避けて通れない問題です。特に人口減少先進地と呼ばれる地域は早急に対策を考えていかなければなりません。

今回、パネリストとして登壇された市町村の方は、先駆けてこの問題に取り組み、どうしたら何度も訪れてみたいと思ってもらえるのか？どうしたらこのまちを選んでもらえるのか？そのテーマに対して、関係人口づくり等、若い人の意見やアイデアを取り入れていくなどして、人口減少時代を生き抜く地方自治体の道を探っておられます。

江南市も人口減少が目に見える形で現れてきました。企業誘致、企業とのコラボ、歴史のまち物語を活かしたまちづくり、木曾川を活かした地域交流等を創っていく必要があると思いました。

今回、学んだことを、これからの江南市のために活かしていけるように取り組んでいこうと思います。